



授業づくりの基本

授業を「**受ける側**」から「**つくる側**」へ
～これからの時代を生き抜く人を育てるために～

群馬県総合教育センター



はじめに

～社会の大きな変化～

ぶーか

V Volatility (変動性)

→ 変化が大きく

U Uncertainty (不確実性)

→ 何が起こるか分からず

C Complexity (複雑性)

→ いろいろな要素が絡み合っていて

A Ambiguity (曖昧性)

→ はっきりしないことだらけ

な時代



スマートフォン



コロナ禍



将来の仕事(AIへ代替)

「AI」 「グローバル化」 「多様性社会」 など、大きく変化している

はじめに

～学校教育で求めていること～

群馬県では…

重要!

「自分で**考えて**」 「自分で**決めて**」 「自分で**動き出す**」

従来の教育



知識の詰め込み
教え込み
正解主義

これからの教育



自分で調べたり、考えたり、人と協力したりして、
答えのない問題を解決していく力が求められている。

はじめに

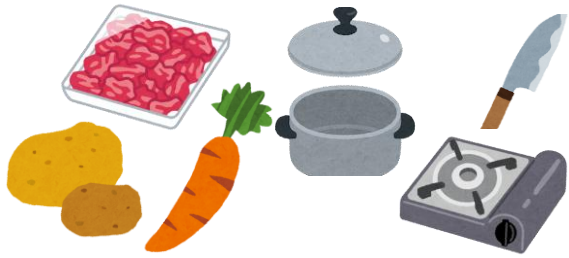
～子供たちに身に付けさせたい力～

重要!

すべての授業で「資質・能力の育成」を目指している！

これからの社会を生きていくために必要な力

「料理」を例にして考えると…



- どのような食材があるか？
- どのような調理器具があるか？
- どのような方法で作れるか？

知識・技能

何を理解しているか
何ができるか



- 食材をどのように調理するか？
- 調理器具をどのように活用するか？
- 手順を考え、食材や調理器具などを活用する。

思考力、判断力、表現力等

理解していること、
できることをどう使うか



- アドバイスを聞いたり、調べたりして工夫する。
- 切り方や煮込み時間などを試行錯誤する。
- 食べてみて「次は～した方がいい」と振り返る。

学びに向かう力、人間性等

どのように社会や世界と関わり、
よりよい人生を送るか

授業づくりの4つのポイント

～学校教育で求められていること～

1

大きな学習のまとまり(「単元」という)の課題を設定する。



2

大きな学習のまとまり(単元)の課題の解決に向け、各単位時間をつなげる。



3

多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面をつくる。

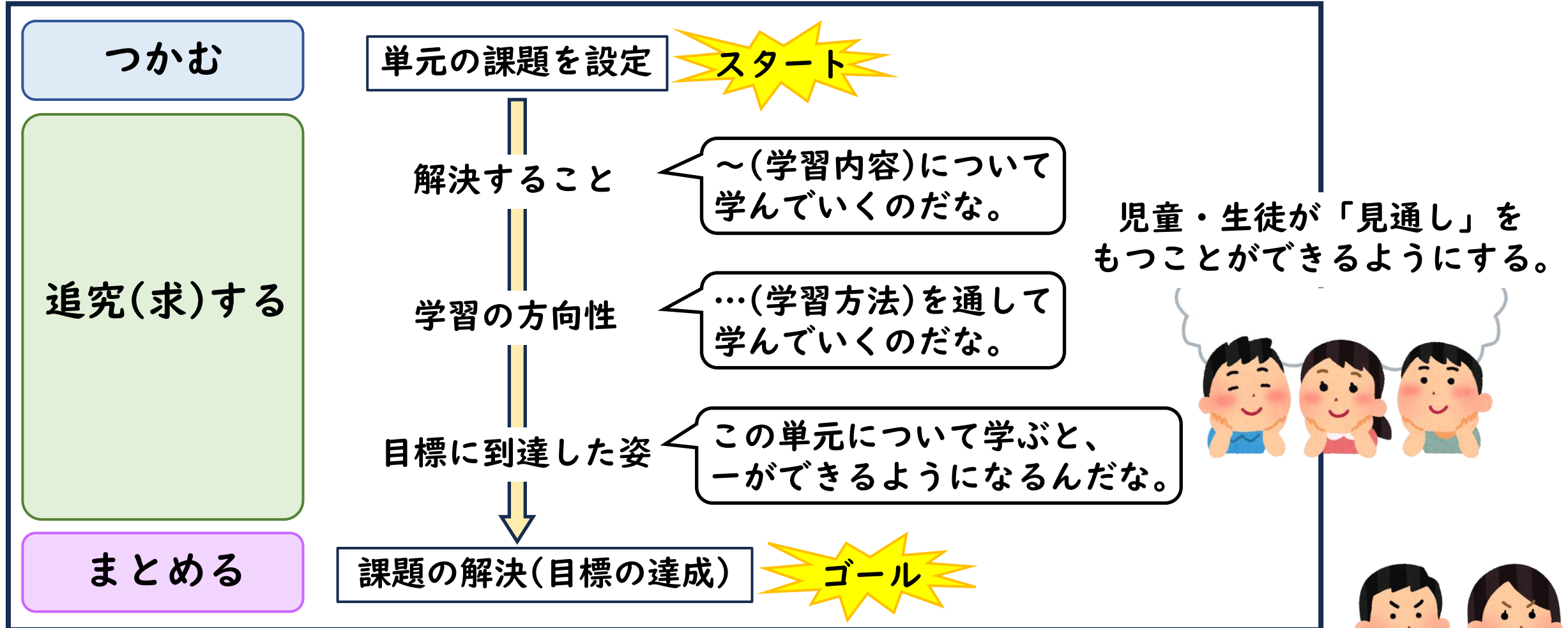


4

主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、各単位時間での「めあて(課題)」の設定と「振り返り」の場面をつくる。

①大きな学習のまとめり(単元)の課題を設定する

～1時間の授業をつくるには、「大きな学習のまとめり(単元)全体」を見る必要がある!～



単元(大きな学習のまとめり)における
児童・生徒の学びを「イメージ」する。



②単元の課題解決に向けて各単位時間をつなげる

～学んだことを活用したり、「考えてみたい」と感じさせたりできるようにする～

つかむ

追究(求)する

まとめる

単元の課題を設定

単位時間の学習 → ねらい

単位時間の学習 → ねらい

単位時間の学習 → ねらい

課題の解決(目標の達成)

○単元の「目標」や育成する「**資質・能力**」を設定

知識・技能

何を理解しているか
何ができるか

思考力、判断力、表現力等

理解していること、
できることをどう使うか

学びに向かう力、人間性等

どのように社会や世界と関わり、
よりよい人生を送るか

○各単位時間の**ねらい**の明確化

どの時間に、どのような資質・能力を育成するか？

○各単位時間の**つながり**を構想

どのように(計画的に)資質・能力を育成していくか？

学んだことをどのように活用していくか？

学んだことにより新たな疑問が生じ、次の単位時間の学習につながっているか？

③学びを広げたり深めたりできる対話的な場面をつくる

～多様な考えに触れることよさや必要観をもたせたい！～

○「対話」にはどのような種類があるの？



作者の意図



児童・生徒どうし



地域の方々



昔の人の
優れた考え方

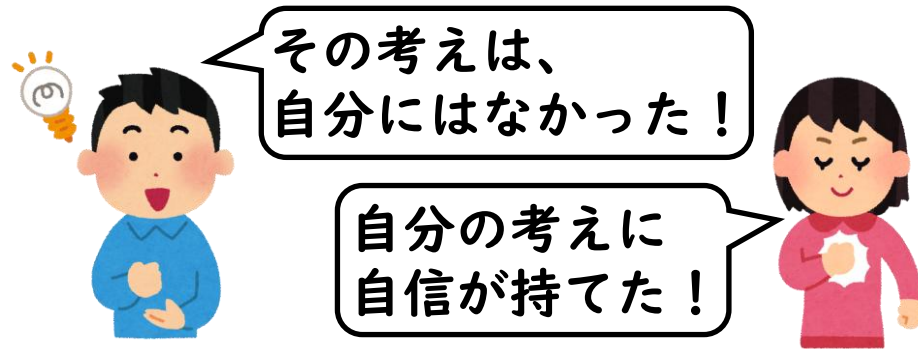


③学びを広げたり深めたりできる対話的な場面をつくる

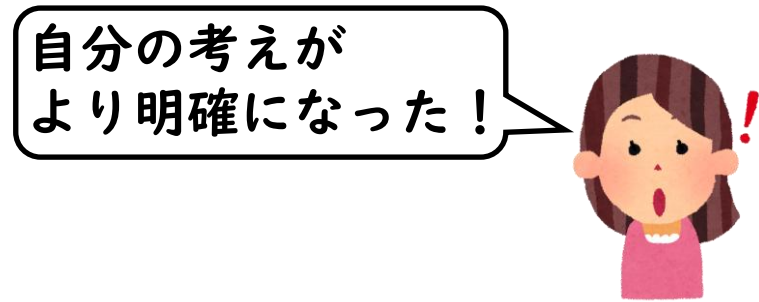
～多様な考えに触れることよさや必要観をもたせたい！～

○対話的に学ぶことには、どのようなよさがあるの？

他者の考えを聞くことで…



他者に考えを伝えることで…



○対話的な場面をつくるためにはどうすればいいの？

- ・「他の人の考えを聞く必要がある！」 「他の人の考えを聞いてみたい！」と児童・生徒が思うようなめあてや活動を設定する。
- ・自然に他者と関わり合えたり対話が生まれたりするような環境づくりを行う。
- ・思いや願いをもち表現する方法の工夫できるようにする。
- ・対話をつなげたり、広げたり、深めたりできるように教師が問いかける。

③学びを広げたり深めたりできる対話的な場面をつくる

～教師は話し合いのコーディネーター役となる～

○発問例

- ・理由を聞く 「なぜ？」 「どうしてそう考えたの？」
- ・他の子につなぐ 「Aさんが～と言ったけど、みんなはどう思う？」
「BさんとCさんの考えは少し違うけど、みんなはどちらに近い？」
- ・考えを確かにする 「本当にこれでいいの？」
- ・視点を変える 「違う状況だったらどうなるだろう？」
「…という視点で考えるとどうなるだろう？」
「次に間違いないようにするためには、どうすればよいだろう？」
- ・考えのよさを分類する 「共通点は？」 「違うところは？」
「優先順位をつけるとしたら？」

話し合いの際には、「目的」「方法」「話し合いの視点」をおさえる！

「教師と児童・生徒」だけでなく、「児童・生徒どうし」をつなぐことを意識する！

④ 「めあて(課題)」の設定と「振り返り」の場面をつくる。

～各単位時間での「めあて(課題)」を設定する手順～

めあて

単位時間の学習において、児童・生徒が学習の見通しをもてるようにするもの。
(教科や校種によっては「課題」とし、疑問形にすることもある。)

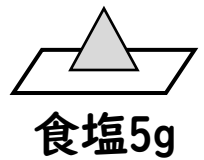
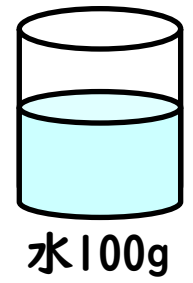
STEP 1 : 「ねらい」を明確にする。

実験結果を基に、物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないことを捉えることができる。

解決すること (～について)
解決の方法 (…を通して)
活動・テーマ (ーしよう、ーだろうか)

STEP 2 : 「まとめ・振り返り」の場面で、児童・生徒にどのようなことを考えさせたいか具体化する。

ものを水に溶かしたとき、できる水溶液全部の重さは、水の重さと溶かしたものの重さの和(合計)になる。



食塩は見えなくなるけど、なくなったわけではない!

STEP 3 : STEP 2となる(正対する)ように「めあて(課題)」を考える。

水溶液全体の重さは、ものを水に溶かす前後ではどうなるだろうか。(どうなるか調べよう!)

解決すること → できる水溶液全体の重さの変化
解決の方法 → 物を水に溶かす前後の重さの比較
活動・テーマ (ーしよう、だろうか) → 実験による検証

答え ↑ ↓ 問い

④ 「めあて」の設定と「振り返り」の場面をつくる。

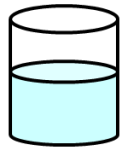
～各単位時間での「振り返り」を設定する順番～

振り返り → 「何を学んだか」「どのように学んだか」などを確認して、自分の学びを自覚すること。

○何を学んだか → 学習内容に関わること
(知識、概念など)

わかったこと、気付いたこと
できるようになったこと
まだわからないこと など

ものを水に溶かしたとき、できる水溶液全部の重さは、水の重さと溶かしたものの重さの和(合計)になる。



水100g



食塩5g



食塩水105g

食塩だけでなくミョウバンについても実験したり、全部の班の結果も含めて考えたことで、「きっとそうだ!」と思えた。

ものが水にとけている液体のことを水溶液という。色がついているものもあるが、とう明である。

○どのように学んだか → 学習方法に関わること
(解決の仕方など)

どのように解決したか
どうしたらできたのか など

具体的な数で考えたことで、予想しやすかった。

水100g + 食塩5g = 食塩水 ? g

比べるものを表にまとめると、わかりやすかった。

班	とかす前	とかした後
1班	52.0g	51.9g

食塩

班	とかす前	とかした後
1班	52.0g	51.9g
2班	52.0g	52.0g
3班	52.0g	52.0g
4班	51.9g	51.9g
5班	52.0g	52.1g
6班	52.1g	52.0g

ミョウバン

班	とかす前	とかした後
1班	52.0g	52.0g
2班	52.1g	52.0g
3班	52.0g	52.0g
4班	52.0g	52.1g
5班	52.0g	52.0g
6班	52.0g	52.0g

板書計画（例）

～黒板を見れば、その時間の学習を振り返ることができる～

7月31日（木） ものの溶け方

めあて

水溶液全部の重さは、ものを水にとかす前後ではどうなるだろうか。

予想

理由も！

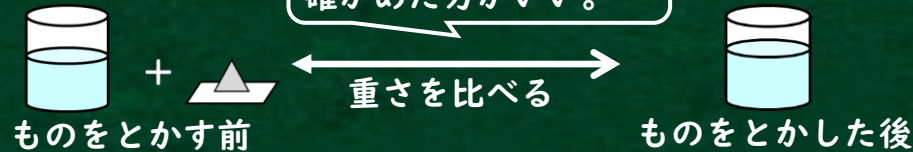


具体的な数で
考えてみると…？

- ・重くなる→水と食塩が合体するから
- ・変わらない→なくなったわけではないから、 $100+5=105$ になるから
- ・軽くなる→食塩は見えなくなったから、小さくなったから

調べる方法

色々なものをとがして
確かめた方がいい。



- ① 食塩をとかす前の全体の重さをはかる。
- ② 食塩を容器に入れ、ふたをしめてすべてとがす。
- ③ 食塩をとがした後の全体の重さをはかる。
- ④ ミョウバンについても①～③のように調べる。



結果

食塩の場合		
班	とがす前	とがした後
1班	52.0g	51.9g
2班	52.0g	52.0g
3班	52.0g	52.0g
4班	51.9g	51.9g
5班	52.0g	52.1g
6班	52.1g	52.0g

ミョウバンの場合

ミョウバンの場合		
班	とがす前	とがした後
1班	52.0g	52.0g
2班	52.1g	52.0g
3班	52.0g	52.0g
4班	52.0g	52.1g
5班	52.0g	52.0g
6班	52.0g	52.0g

考察（結果からわかること）

ものをとがす前後で、全体の重さは変わらないと考えられる。
とけたものは見えなくなるけど、なくなったわけではないからである。

食塩とミョウバン、1～6班で実験→
「変わらない」と言えそう。

表でまとめると比べやすい

まとめ

できる水溶液全部の重さは、
ものを水にとがしたとき、
水の重さととがしたものの
重さの和（合計）になる。

